

(3) 身体活動・遊び

①現状及び評価

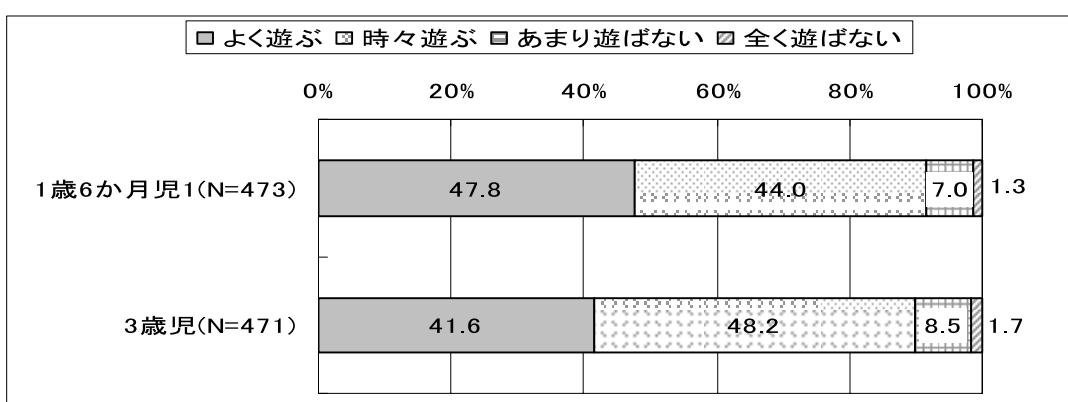
3-1 子どもとよく遊んでいる父親の増加

子どもとよく遊んでいる父親は増加したが、1歳6か月児に比べて3歳児では減少となった。また、1歳6か月児、3歳児ともに「全く遊ばない」「あまり遊ばない」父親が10%前後あった（図14）。

平成19年12月、国において「ワーク・ライフ・バランス」の行動指針が策定され、社会全体が仕事と生活の調和の実現に向けて動き出していることから、父親の育児参加が進んでいくものと思われるが、今後も保健事業や地域において子どもの成長と父親の関わりについての啓発に取り組む。

（図14）父親が子どもと遊ぶ頻度

（平成22年度幼児健診アンケート）



3-2 子どもの体力低下を防ぐ

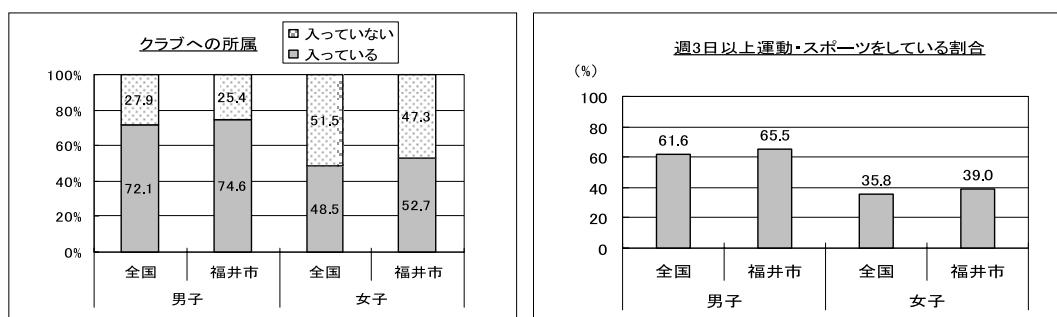
本市では、小学5年生、中学2年生とも体力が向上した。

小学5年生の男女とも、スポーツ少年団を含む地域スポーツクラブに所属している割合や、中学2年生においても全国に比べ運動部に所属している割合、週3日以上運動・スポーツをしている割合が高いことから、向上したと考えられる（図15、16）。

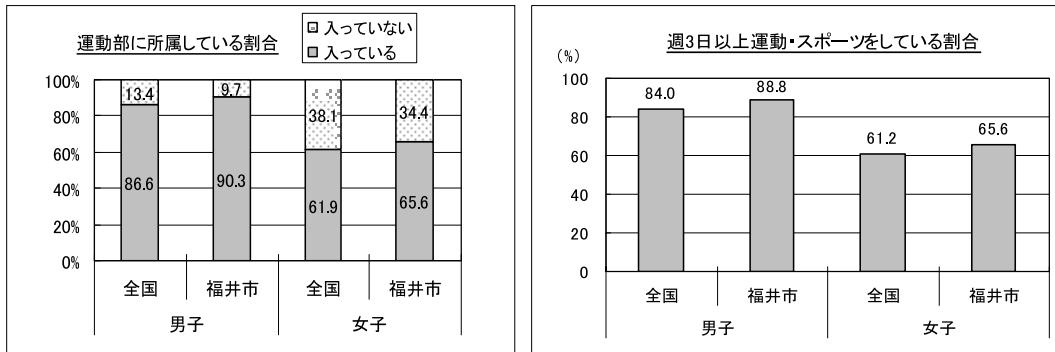
特に小学生においては部活動がないため、今後とも地域の人たちの支えによって児童がスポーツ活動等できる環境の維持が必要と考えられる。

また、福井市小中学校教育研究会・保健研究部会の調査によると、コンピューターゲーム・テレビゲーム等の家庭内での遊びの時間はどの学年とも前回調査より短くなっていた（図17）。

（図15）小学5年生の運動習慣 （平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査）

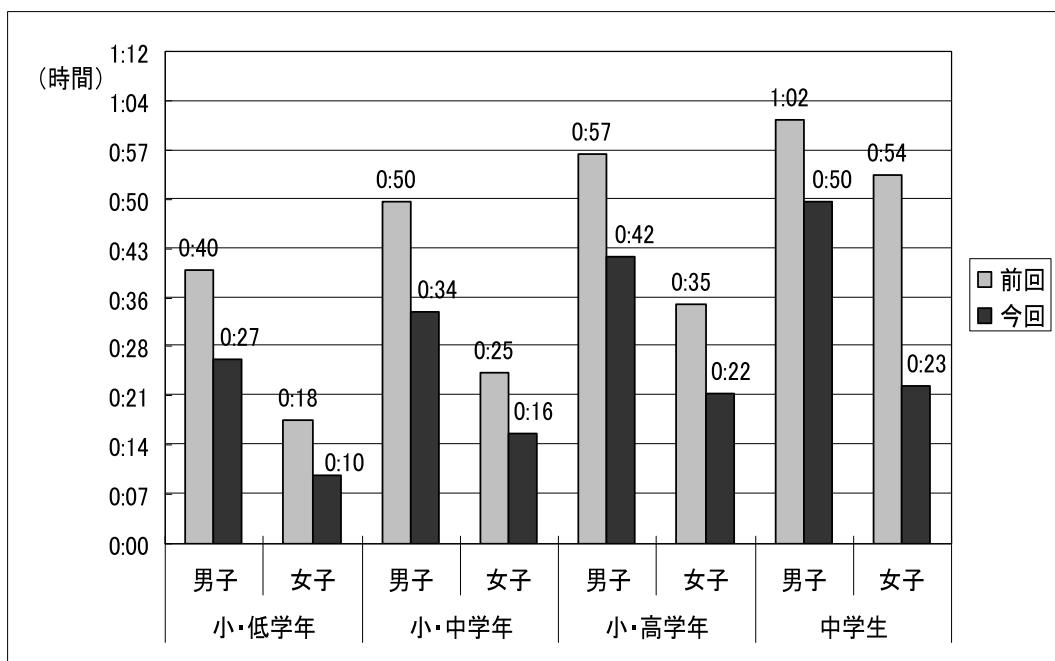


(図 16) 中学 2 年生の運動習慣 (平成 22 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査)



(図 17) コンピューターゲーム、テレビゲーム等の時間

(福井市小中学校教育研究会・保健研究部会平成 21 年度実施「子どもの生活習慣実態調査」)



②今後の方向性

- 幼児期の身体活動や遊びの意義や遊びの必要性について啓発に取り組む。
- 父親の育児参加を推進する。
- 地域や関係機関と連携したスポーツ活動づくりを支援する。

(4) 歯の健康

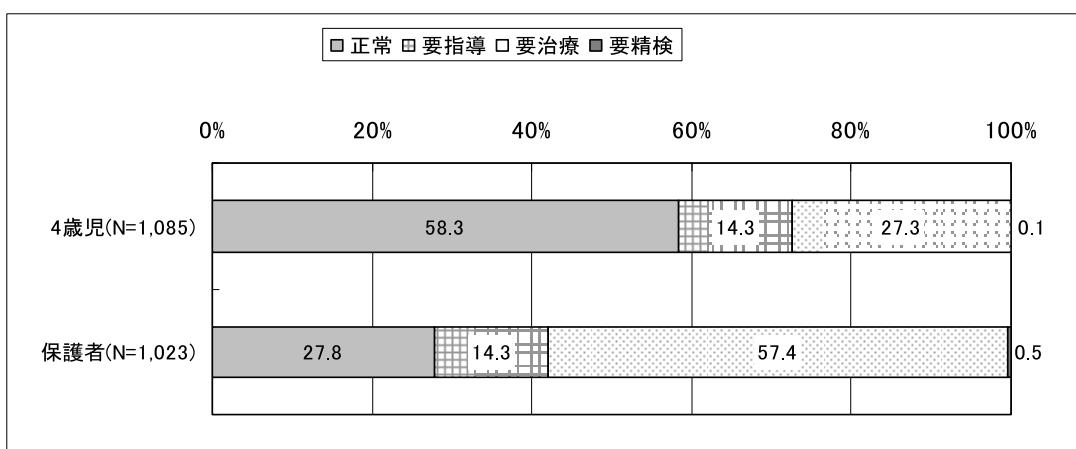
①現状及び評価

4-1 虫歯のある子どもの減少

平成 18 年度から 1 歳 6 か月児健診において実施している歯・口腔ケアに関する集団指導をはじめ、育児相談会における歯科教育、平成 19 年度から実施している 4 歳児親子歯科健診等の取り組みにより、幼児、小・中学生の虫歯保有率の指標は全て改善し、3 歳児及び中学生においては目標を達成した。

また、健診後のアンケートにおいて、今後も定期健診を受けたいと答えた人が 86.0% と高かったことから、4 歳児親子歯科健診をきっかけに歯の定期健診に対する意識が高まったものと考えられる。

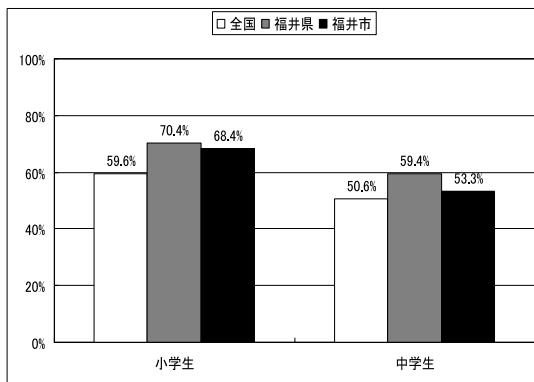
(図 18) 平成 22 年度 4 歳児親子歯科健診結果



一方、本市の小・中学生の虫歯保有率の現状は、全国より高く、県より低くなっている(図 19)。また、小学生は中学生に比べて虫歯保有率が高く、未処置者も多くなっている(図 20)。なお、小学生の未処置者は乳歯の虫歯によるものではないかと考えられるが、未処置は永久歯へ影響が懸念されることから、今後は適正な治療への勧奨に取り組む必要がある。

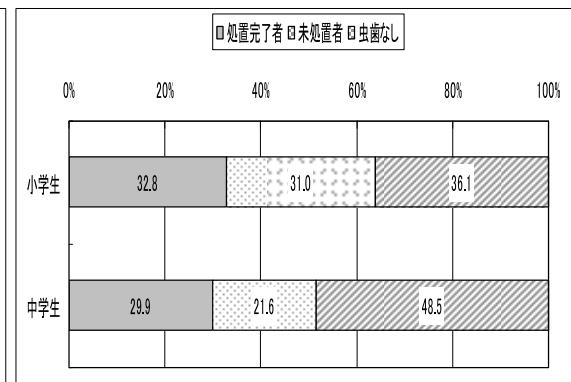
(図 19) 虫歯保有率

(平成 23 年度学校保健統計調査)



(図 20) 福井市の虫歯の状況

(平成 23 年度学校保健統計調査)



②今後の方向性

- 乳幼児期における正しい歯みがきや口腔内の手入れの方法について、保護者に対する取り組みを行う。
- 小・中学生に対し、虫歯治療の勧奨や歯・口腔の健康に対する意識啓発の取り組みを進める。

(5) タバコ・アルコール

①現状及び評価

5-1 未成年の喫煙者減少 (15~19歳)

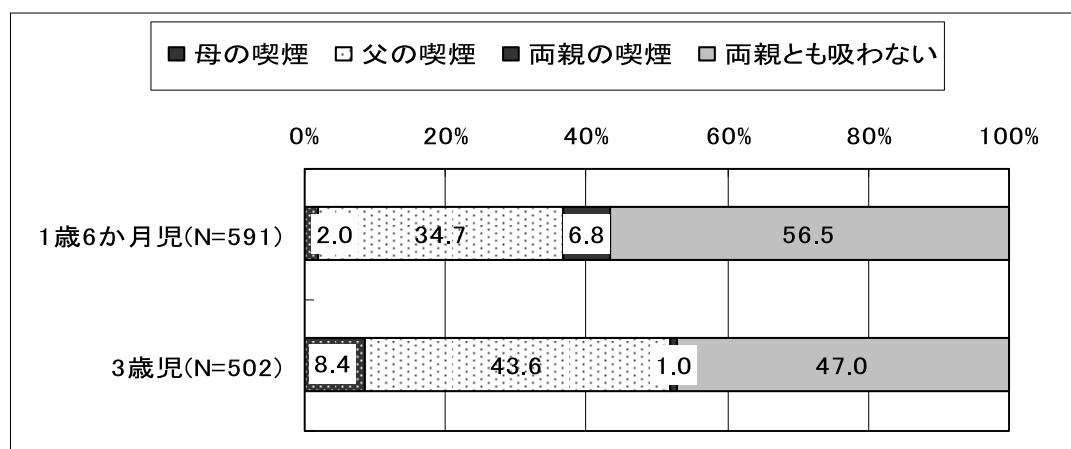
平成 20 年度からのタスコの導入等により、未成年者がタバコを購入しにくい環境になってきたが、未成年者の喫煙状況の指標は、男子では増加した。ただし、調査対象の母数が少ないため、喫煙の傾向は見えにくい。

幼児健診アンケートの家族の喫煙状況を見ると、1歳 6か月児に比べて 3歳児の方が、両親が喫煙している世帯が多かった。特に母の増加率が高いことから子どもが大きくなつたことで喫煙を再開しているものと思われる（図 21）。また、喫煙者がいる世帯には、健診時に子どもへの受動喫煙の害や予防策について周知と指導を行っている。

厚生労働省が実施した「平成 22 年乳幼児身体発育調査」によると妊娠中の母親の喫煙率は 5.0% と前回（12 年）の 10.0% から大幅に減少していた。しかし母親が喫煙しない場合でも、父親や同居者の喫煙の影響が指摘されており、同室内で喫煙本数が増えるに従つて出生時の体重は低くなる傾向にあるとしている。

（図 21）両親の喫煙状況

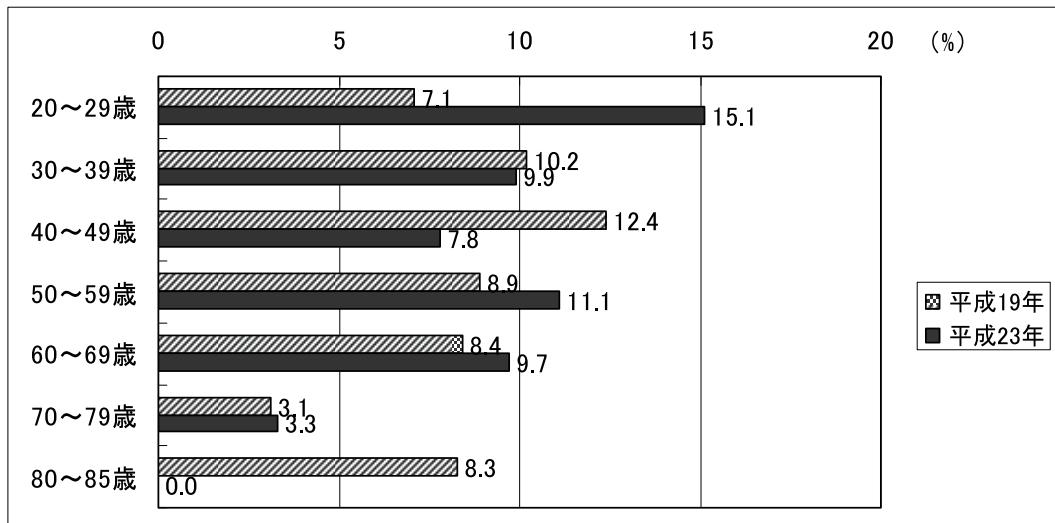
（平成 22 年度幼児健診アンケート）



21 アンケートでは、20～30歳代の女性の喫煙率が高くなっていたことから、健やかな子どもを産み育てるためには、これらの世代に対し、禁煙指導が必要と思われる（図22）。

（図22）女性の年代別喫煙率

（21アンケート）



②今後の方向性

- 学校、地域と連携し、タバコの害についての啓発や20歳代及び未成年者に対する喫煙防止に取り組む。
- 特に妊娠期及び乳児を持つ家庭に対し、タバコの害や受動喫煙防止の知識普及を実施する。

あじさいちゃんのひとくちコラム



タバコの害をおさらいしましょう

〈身体に与える影響〉

高血圧、心疾患、動脈硬化、各種がん、慢性閉塞性肺疾患、脳卒中、歯周病などの病気の危険性が高まります。

〈子どもに与える影響〉

喫煙しない妊婦を1とした場合、喫煙している妊婦の早産の危険性は3.3倍、低出生体重児は2.4倍、先天異常は1.3倍の確率になります。その他、受動喫煙による呼吸器疾患、乳幼児突然死症候群などの影響もあります。

〈美容面への影響〉

肌のハリ・ツヤがなくなったり、しみ・しわの増加、美肌に不可欠なビタミンCの破壊など、タバコは美容の大敵です。

5

今後の
方
向
性
評
価